

VI 統計トピックス

7月 携帯電話は、より生活の一部に — 第4回 情報化社会と青少年に関する調査

内閣府がまとめた第4回「情報化社会と青少年に関する調査」(全国の12～29歳の男女6,000人を対象に調査)によると、なくてはならないと思うほどに大切なメディアを3つあげてもらったところ、「テレビ」が79.1%、「携帯電話・PHS」が56.5%、「まんが・週刊誌・雑誌」が23.7%という結果になりました。各年齢の中では唯一18～22歳の女性で「携帯電話・PHS」が「テレビ」を抜き80.9%で1位になっています。

また、携帯電話・PHSがあることによる意識・行動面への影響として、「いつでもどこでも連絡できるという安心感がある」と回答した人が78.5%、次に「持ち忘れると不安になる」が43.7%、「留守番電話やメールが来ていないか、よくチェックしてしまう」が34.2%という結果になりました。

メールなどの文字通信機能の利用状況については、「1日10回以上利用している」との回答は15歳～17歳で46.4%と全ての年代の中で最も多く、12歳～14歳、18歳～22歳でも30%以上となり各年代の1位になっています。

8月 減少するいじめ、増加する不登校 — 生徒指導上の諸問題の現状調査(速報)

文部科学省がまとめた「生徒指導上の諸問題の現状調査(速報)」によると、平成13年度に全国の公立小・中・高等学校の児童生徒が、学校内で起こした暴力行為の発生件数は、3万3,129件(前年度比4.2%減)と現在の調査方法となった平成9年度以降で初めて減少しています。学校別では中学校2万5,769件(前年度比5.6%減)、高等学校5,896件(前年度比1.3%減)だったのに対して、小学校では1,464件(前年度比10.0%増)という結果になりました。

いじめの発生件数(特殊教育諸学校を含む)は、2万5,076件(前年度比18.9%減)と平成7年度の6万96件をピークに6年連続で減少しています。また、いじめが発生した学校の全学校数に占める割合は20.6%で、各学校の中では中学校の40.1%が最も大きな割合となっています。

こうした中で、不登校児童生徒数は13万8,696件(前年度比3.3%増)と増加を続けており、全体では81人に1人、最も割合の高い中学校では36人に1人が不登校児童生徒であることとなります。

9月 現代人が求めるものは？ — 国民生活に関する世論調査

内閣府の「国民生活に関する世論調査」によると、日頃の生活の中で「充実感を感じている」とする者の割合が67.0%('十分充実感を感じている' 10.3% + 'まあ充実感を感じている' 56.7%)と、「充実感を感じていない」29.6%('あまり充実感を感じていない' 23.7% + 'ほとんど(全く)充実感を感じていない' 5.9%)を大きく上回っています。

次に、充実感を感じるのは、主にどのような時かという質問では、「家族団らんの時」44.7%、「ゆっくりと休養している時」39.5%、「趣味やスポーツに熱中している時」38.0%となりました。

また、働く目的についての質問では、「お金を得るために働く」52.8%、「生きがいを見つけるために働く」20.9%、「社会の一員として、務めを果たすために働く」11.1%でした。

今後の生活の仕方として、心の豊かさか、物の豊かさかについての回答は、「物質的にある程度豊かになったので、これからは心の豊かさやゆとりのある生活をすることに重きをおきたい」60.7%、「まだまだ物質的な面で生活を豊かにすることに重きをおきたい」27.4%という結果となっています。